



国際ロータリー第2590地区 川崎百合丘ロータリークラブ

Weekly Report

2013～2014年度

平成25年12月24日(火)
第1703回例会

会長 小塚 良雄
幹事 中村 和広
会報 中村 和広



作者の言葉
我々のロータリーは、
この多岐にわたる活動を通じて、
世界中の多くの人々を助けることを
目指している。そのために、
私たちは、互いに助け合い、
共に成長していく必要がある。
今年最後の例会となりました。
来年もよろしくお祈りいたします。
中村 和広

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
例会会場 ホテルモリノ7F TEL 044-966-1300

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ
<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第1703回例会記録 平成25年12月24日(火) 24/46回

<点鐘> 小塚会長

<ソング> 我等の生業

<お客様ご紹介> 小塚会長
川崎RC 白井勇様

<会長報告> 小塚会長
1. 『2014～15年度クラブ役員キット』『2012～13年度年次報告』『学友浜崎』『知ってください。ヤクブツのこと。(ポスター・チラシ)』送付の件
クラブ役員キット→クラブ会長要覧・クラブ幹事要覧・クラブ会計要覧・クラブ管理運営委員会の手引き・クラブ会員増強委員会の手引き・クラブロータリー財団の手引き
クラブ役員キットについては、次年度の役員にお渡しします。
2. あさお区民まつり実行委員会より報告書送付の件



<幹事報告> 中村幹事

*例会変更 川崎麻生RC 川崎中RC
川崎中央RC 横浜本牧RC
*会報着 川崎とどろきRC 川崎中RC
*追伸
・2014年1月ロータリー為替レート 1\$=102円

<ニコニコ委員会> 阿久澤委員
川崎RC白井勇様→「今年もいろいろお世話になりました。来年もよろしくお祈りいたします」。当クラブより、小塚会長→「井上久会員、会員卓話楽しみにしていました。貴重なお話をよろしくお祈りいたします」。中村幹事→「今年最後の例会となりました。一年間大変お世話になりました。来年もよろしくお祈りいたします。皆様、良いお年をお迎えください」。以下、感謝をこめてニコニコへ。安藤亨会員、安藤志子会員、井上久会員、井上勇会員、鴨志田会員、小島会員、中島健児会員、中島眞一会員、野島会員、大矢会員、佐藤会員、関山会員、白井会員、鈴木文夫会員、玉井会員、鶴丸会員、碓井会員、渡邊会員、山口会員、結城会員、阿久澤会員。

<出席委員会> 碓井委員

	会員	出席	欠席	メーク	出席率
第1703回	37	26	11		70.27%
第1702回	37	37			100%

第1705回	1月14日	クラブ協議会
第1706回	1月21日	会員卓話
第1707回	1月28日	クラブフォーラム

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	24件	25,000円	605件	672,827円
財団	0件	0円	24件	286,000円
ベネファクター	0件	0円	2件	200,000円
米山	0件	0円	19件	293,700円

本日のプログラム

<会員卓話>

井上久会員

入会してすぐに卓話をしました。今回は2回目です。7年後にこういった卓話の機会が回ってきました。前回よりロータリーについても、皆さんについても良くわかっているので緊張しています。

今回は幼稚園についてのお話をしたいと思います。幼稚園の園長というによく「いいですね」と言われます。世間では一日子どもと楽しく過ごして若い先生に囲まれて、と思われているようですが、現実にはそうではありません。幼稚園は学校教育法で定められた学校の最初に挙げられています。保育園は「福祉施設」です。だからこそ、幼稚園は文部科学省から、教育理念に基づいた目標に向けた計画立案や、個別指導等の細やかな教育のための作業が求められます。幼稚園というのは学校中では規模が小さいため、園長というのは用務員、事務、運転手、なんでもやります。

最近、特に学校に対する風当たりが強くなってきています。体罰しかり、いじめしかり。何か問題が起こると教育者がすぐに糾弾される風潮があります。またこれに加えて、近年の子どもの様子にも変化が出てきています。特に、障害の持ったお子さんが大変多くなってきています。今までは「躰の問題」とされていたものが、自閉症・ADHD・アスペルガーなどと診断され問題視されるようになってきました。このような児童は、かつては2%程度、今では5-6%にも増加しているとさえ言われています。川崎市では障害のある児童を積極的に受け入れようと方針があり、全国的にも高い数字になっています。

もう一つ顕著なのが、アレルギーを持ったお子さんが増えていることです。アナフィラキシーショックで最悪の場合死にいたることもあります。原因は不明ですが、私達を取り巻く地球環境の悪化もあるのかもしれない。

先日の川崎市長選挙では3名の候補が共通して子育て支援、特に「待機児童対策」を掲げていました。

待機児童とは認可・無認可に関わらず保育所に入れない子どものことです。川崎市は待機児童がもっとも多いという事実があります。待機児童対策はするべきというのがマスコミを含めた最近の認識です。その対策は保育所を増やすこととなっています。保育所の園児一人当たりには、平均125万円かかっています。それだけ国や市は母親に外で働いてもらう為にお金をかけているともいえます。また最近の保育所では、長時間子どもを預かることが多くなっています。子どもにとって本当に幸せなのでしょうか。長時間の預かりは可哀想だというのが幼稚園経営者の共通見解です。今の待機児童対策は、かわいそうな子ども達を増やそうとしているのです。では、働くお母さんが増えてきた今、どうしたらよいのでしょうか。旭山動物園前園長の小菅さんは「動物界の最大の使命は命の連鎖。つまり子どもを産み育てていくこと。子どもをとるか仕事をとるか、などと比較することは大きな間違いである」と言っていました。また、児童心理学者の佐々木さんは著書の中で「育児の主役はお母さん。母と子は生まれる前からその関係が始まっている。決して交代できるものではない」と述べています。当会の大西会員も「家庭にいる女性は既に全員が働いている」と女性の社会進出について危惧されていました。

小学校に上がるまでの子どもは、せめてお母さんが抱きしめて育ててあげてもらいたいと思います。そのために母親がしっかり家庭で安心して子育てできる環境作りが必要になってくるのです。もちろん保育所本来の機能を否定はしません。母子家庭や病气などといった母親のお子さんには、手厚く対応すべきだと思います。しかし、最近の母親にありがちな「預かってくれるなら、預けようかしら」といった人が待機児童を増加させているのです。そういう人には遠慮していただきたいのが本音です。本当に必要な方に保育所を譲っていただき、お子さんが3歳くらいになったら、集団生活により人間形成の基礎が築かれる「幼稚園」に入れていただきたいと思います。お願いして、本日の卓話とさせていただきます。

